地域を守り、未来へつなぐ。

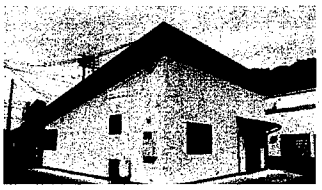
～うまい米とエゴマパワーで、若桜の農業に活力を！～

若桜町認定農業者
有限会社若桜農林振興
代表取締役　小林　正樹

１　はじめに

弊社は、平成１１年１１月に地域の農林振興を図ることを目的に若桜町、ＪＡ等が出資し設立されました。当初は、若桜町内の農作業受託組織として水田の耕耘、代かき、田植等の春作業と、稲の刈取作業がメインの業務でした。その後、平成１７年に若桜町活性化施設味工房、令和元年に若桜町エゴマ搾油加工施設エゴマ工房(写真１)、令和２年に若桜町精米施設（写真２）を若桜町が整備し、各施設の指定管理者も受け管理運営を行っています。

若桜町は高齢化や人口減少が進んでおり、新規就農者や農業後継者が不足しています。これまで自家で作業を行ってきた小規模生産者が機械の更新のタイミングで離農するケースが増えてきており、作業委託ではなく農地を貸したいというニーズが増えています。このような中、若桜町の農地を守る受け皿として、町から要請を受け、令和２年度から営農事業を開始しました。初年目は、町内で一番耕作放棄地が多い[redacted]地区を中心に、約１ha(８筆)で水稲、水の便の悪い圃場３０a(３筆)では大豆、畑地４０a(３筆)ではエゴマの作付けからスタートしましたが、年々借受ける圃場は増えている状況です。



【写真１：エゴマ工房】

【写真２：若桜町精米施設】

若桜町はもともと狭い農地が多く、面的集積が難しい土地柄であることから小規模の農家が多い状況です（表１）。令和４年の若桜町内の水稲の栽培面積は約 140ha となっていますが（表２参照)、町内の大きな担い手は[redacted]、[redacted]、[redacted]に加え弊社しかなく、作業受託を含めると弊社は町内で 2 番目に大きい経営規模になります。町内の農業者の高齢化は進んでおり(表３)、不利な営農条件では新たな担い手も育ちにくいことから、町内の農業を支える数少ない担い手として、さらに農地を守る受け皿としての要請にこたえ農地を集積し、多くの圃場を管理し継続的に経営していく必要があります。そのためにも様々の課題を解決しながら経営基盤を強化していく必要があります。

この度がんばる農家プランに取り組み、経営を安定させることで、より一層、若桜町内の信頼を得られる会社になりたいと考えています。

表１　若桜町の規模当たりの農家数(令和４年)

（単位：人、％）

20a未満	[redacted]	[redacted]
20a～50a未満	[redacted]	[redacted]
50a～1ha未満	[redacted]	[redacted]
1ha～5ha未満	[redacted]	[redacted]
5ha～10ha未満	[redacted]	[redacted]
10ha以上	[redacted]	[redacted]
合計	[redacted]	[redacted]

[redacted]

表２若桜町品目別栽培面積(令和４年)

（単位：ha）

水稲		[redacted]
内訳	コシヒカリ	[redacted]
	ひとめぼれ	[redacted]
	酒米	[redacted]
野菜		[redacted]
エゴマ		[redacted]

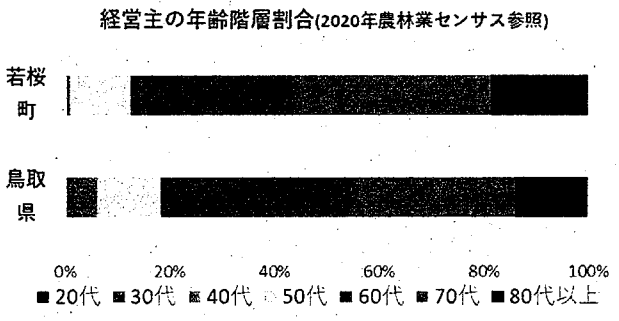
[redacted]

表３　経営主年齢階層別経営体数と割合

（単位：人）

	若桜町	鳥取県
20代	0	19
30代	1	231
40代	0	616
50代	15	1,787
60代	40	5,230
70代	49	4,587
80代以上	24	2,011
合計	129	14,481

※2020年農業センサス参照



２　経営の現状

現在、弊社の従業員は私も含め職員４名、パート１１名（営農関係７名、食品加工関係４名)、若桜町特定地域づくり協同組合からの派遣４名の計１９名です。この協同組合は、若者の定住や移住促進するため、通年雇用を提供する目的で設立されており、弊社は主要な受入れ先となっています。

弊社は農業だけでなく、様々な業務を行っており、各部門の主な業務内容は以下のとおりです。各個人が複数の部門に携わって業務を行っています(図１)。また、機械等の整備状況は表６のとおりです。

＜各部門の主な業務内容＞

①「農業部門」：水稲、エゴマ等の農作物の生産及び販売、各種農作業の受託、町内で生産されたコメの買取り及び販売

②「精米施設運営部門」：若桜町精米施設の管理運営（指定管理者）。自社生産米の乾燥調製並びに、町内農家の乾燥調製、籾摺・精米の受託作業。

③「エゴマ工房部門」：若桜町エゴマ搾油加工施設の管理運営（指定管理者）。町内産エゴマの買取り、加工（焙煎、搾油）、販売。

④「味工房部門」：若桜町活性化施設味工房の管理運営（指定管理者）。

⑤「町委託事業部門」：町から委託された公園管理作業、町道管理作業

作物栽培状況

令和３年度は、水稲（コシヒカリ・ひとめぼれ・もち米）、エゴマ、刀豆、大豆、唐辛子を栽培しましたが、作業管理に無理が生じたため、令和４年度は水稲、エゴマ、刀豆の３品目に限定しました。このうち水稲は約６．５ha で品種は、コシヒカリ（特別栽培）、モチ米、酒米を作付け。エゴマは、町内全体的に栽培面積が減少しているため、エゴマ油の原料を確保するためにも面積拡大をする予定です（表４）。

農作業受託は、営農自体をあきらめ農地を貸し出する農家が増加していることから、大幅な増加は見込めませんが、今後もある程度の面積が見込まれます。（表５）

コメ販売状況

若桜町の水稲収穫量は、平地と比較して多くの収量は望めませんが、若桜の地の利である「空気、水がきれいで、標高が高いため寒暖の差が大きい」、この好条件で育った米は、旨味が一粒ひと粒に凝縮されとても美味しいのがセールスポイントです。美味しいと感じられる米の多くは、玄米タンパク含量が 7.4%以下です（鳥取県農業試験場　成果情報 2008)。精米施設を利用する農家の米や弊社の米の多くは、タンパク含量が 6%後半から 7%前半であり、タンパク含量が低い美味しいお米です(弊社測定)。

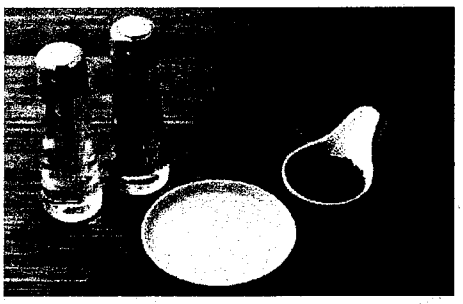
【米のパッケージの１例】

しかし、個々の農家の生産量は少ないことから有利販売に繋がっていません。そこで、自社生産のコメだけではなく、町内で生産されたコメを買取り、量を確保して直接販売に取り組んでいます。現在、鳥取市内の飲食店への販売、道の駅若桜を中心に鳥取市内４店舗で委託販売しています。

エゴマ販売状況

エゴマでは、町内で生産されたエゴマを買取り、エゴマ油などに加工し、販売も行なっています。原料の調達からから加工販売まで一貫して行なっています。ネット販売にもふるさと納税を含め２社に出品しています。

また、令和４年度からは鳥取環境大学と提携し、学生のゼミの一環としてエゴマ栽培と商品開発に取組んでいます。同大学との共同研究でエゴマの成分検査にも取り組んでいます。



【写真：エゴマ油の商品】

【表４：経営面積の現状と今後の見込 】　　単位：a

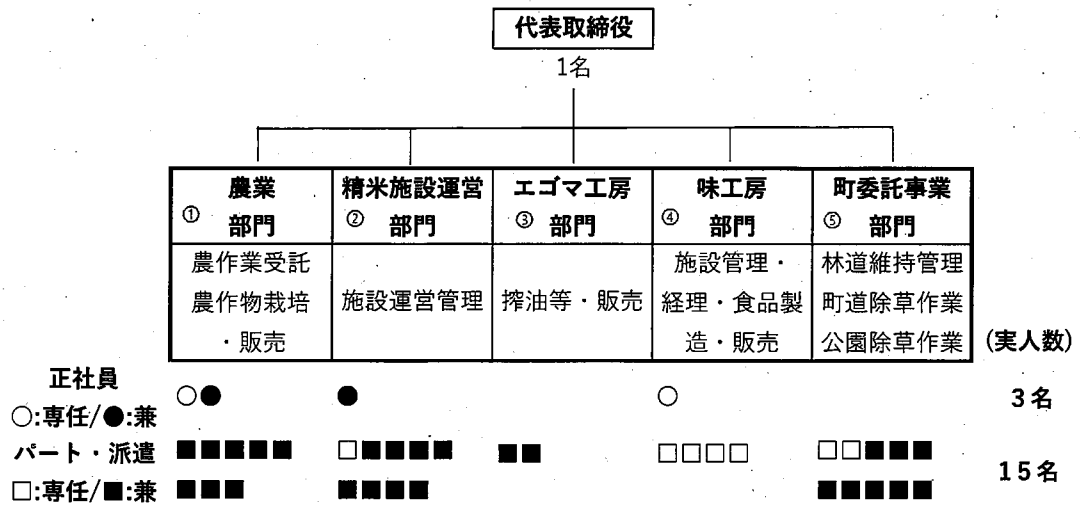
品目		R3(実績)	R4(実績)	R5	R6	R7
水稲	主食用米(ｺｼﾋｶﾘ等)	344	548	750	950	1,000
	酒米	—	61	150	250	500
	計	344	609	900	1,200	1,500
エゴマ	—	45	70	140	140	140
大豆･刀豆他	—	34	—	—	—	—
保全管理	—	45	60	60	60	60
営農面積合計		468	739	1,100	1,400	1,700

【表５：農作業受託面積の現状と今後の見込】　　単位：a

作業名	R3(実績)	R4(実績)	R5	R6	R7
耕耘	489	327	400	400	400
代かき	394	505	500	500	500
田植	532	505	500	500	500
刈取り	1,417	※1,500	1,450	1,450	1,450
堆肥散布	224	※200	150	150	150
刈取り(エゴマ)	115	※160	170	180	190
受託面積合計	3,040	3,197	3,170	3,180	3,190

※は見込みの数字

【図１：有限会社若桜農林振興の各部門と社員等の配置状況】



【表６　機械の整備状況】

種類	能力	台数	所有者	取得年月	備考
[redacted]	[redacted]	1	農林振興	H13.6	
[redacted]	[redacted]	1	農林振興	H14.7	
[redacted]	[redacted]	1	農林振興	H18.12	中古
[redacted]	[redacted]	1	農林振興	R1.9	中古
[redacted]		1	農林振興	R2.4	中古
[redacted]		1	農林振興	R3.12	R３年度中山間地域を支える水田農業支援事業
[redacted]		1	農林振興	R3.12	
[redacted]		1	農林振興	R3.12	
[redacted]	[redacted]	1	若桜町	R2.11	
[redacted]	[redacted]	1	若桜町	H31.3	がんばる地域プラン
[redacted]		1	若桜町	H31.3	がんばる地域プラン
[redacted]		1	若桜町	H31.3	がんばる地域プラン
[redacted]		1	若桜町	H31.3	がんばる地域プラン
[redacted]		1	若桜町	H31.3	がんばる地域プラン
[redacted]	[redacted]	1	若桜町	H31.3	がんばる地域プラン

3　課題

課題１：圃場条件が悪い

現在借受けている農地は、地域の特性柄一筆当たりの面積は平均１２ａと小さく、３０ａ以上の圃場は１筆もありません。また、四角形の圃場よりもいびつな形状の圃場が多く、作業時間のロスは大きいと感じています。また、圃場が町内に点在しているため移動時間が多くかかり、作業効率が悪い状況です。さらに、特に広い法面が多いことから、畦草管理にかなりの時間を要しています。畦草管理は、地域の美観を守り、病害虫の発生防止、獣害対策としても重要な作業ですが、今後の筆数増加に伴い手が回らなくなることが懸念されます。

課題２：反収の低迷

水稲は、栽培を始めた令和２年産は反当 373 kgでしたが、３年産は 255 kgと落ち込みました。主な要因として、雑草の繁茂とイモチ病の発生があげられます。雑草の繁茂は、除草剤散布後に適正な水管理ができず、除草剤の効果が低下したことが原因です。また、令和３年度から特別栽培に取り組みましたが、肥料・農薬の使用方法等の栽培技術が未熟だったこともあげられます。

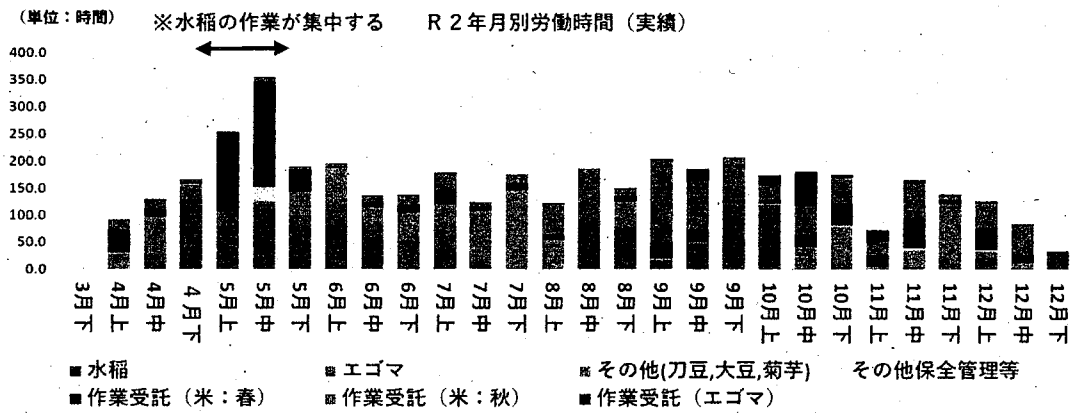
課題３：作業量の増加、作業時期の集中

若桜町の農地は標高 200m以上と高いため、早生品種のコシヒカリとひとめぼれを中心に栽培されています。そのため自社経営面積が増加するにつれ、受託と自営の作業日程がますます重複化します。（別添資料機械稼働計画、図２参照）春作業では、残雪の多い年では特に作業の開始時期が遅くなり、作業時期が４月中旬から５月中旬に集中します。秋作業の収穫作業についても、早生品種の収穫適期である９月上旬から中旬に集中します。また、受託優先でおこなうため、その年の天候によっては、自営分は刈遅れとなり米の収量減や品質低下につながる恐れがあります。

今後、自社経営面積の増加に伴い、いびつなほ場や、小さいほ場、水利の悪い圃場等、効率的な作業が困難な圃場も増加すると想定されます。

限られた期間で作業をこなすためには、機械を増台、高性能化など整備することで迅速化と効率化を図る必要があります。

【図２：月別労働時間(Ｒ２年実績)】



課題４：オペレーターの不足

現在、オペレーターは社員１名とパート１名で対応しています。令和２年度までは春、秋とも受託作業メインでしたが、今後は経営面積の増加とともに耕作面積の増加、機械の増台等を予定しており、オペレーター不足は必至です。また、現在オペレーターをしている社員は、繁忙期に休暇が計画的に取得できない状況であることから、働きやすい職場の実現のためにもオペレーターの確保は必要です。

課題５：社員の技術や知識の不足

現在営農関係は正社員２名、パート４名、派遣４名の 10 人態勢で行っています。その内、農業未経験者が４名と半数近くおり、日頃から経験のある社員が指導し、作業をしながら技術を習得しています。しかし、他の事業の受託作業もあるため、社員一人が複数の事業に携わっています。このため、それぞれの事業の部分的な技術習得に留まり、全体を通じての知識や技術習得に至っておらず、専門性の向上や技術の早期習得ができていない状況です。

課題６：販路が限定している

水稲の栽培面積の拡大に伴い収穫量も増加するため、販路拡大が最大の課題です。現在は、鳥取市内の飲食店２店舗と委託販売数店舗、後は個人直販のみです。エゴマは、町内で収穫された実をすべて買い取り、油に搾油し「若桜のエゴマ油」として、道の駅若桜を中心に委託販売していますが、近年のコロナ禍の影響で県外への営業が全くできない状況です。ｗｅｂでの商談会にも参加はしていますが、思うような成果は上がっていません。今後は営業力の強化も必要と感じています。

4　プランの内容

記載した様々な課題を一つひとつクリアしていき、生産性の効率化、高品質な作物の生産、販売力、この三つの歯車が噛合うことで目標達成が見えてきます。

そのためには従業員個々の知識と技術を向上させることで人材の育成になり、機械を整備することで作業効率がアップすると考えています。並行して、新商品の開発、販路拡大、販売力の強化をしてまいります。

（1）プランの目標

若桜町の農地と景観を守るため・・・

① 経営面積の拡大

・経営面積

Ｒ３年度 4.68ha　⇒　Ｒ７年度 17ha

② 反収の増加

・水稲（主食用米）

Ｒ３年産 255 kg　⇒　Ｒ７年産 330 kg

③ オペレーター育成（後継者発掘）

・Ｒ３年　２人 ⇒ Ｒ７年　４人

【 経営の現状と目標 】

① 経営面積の拡大【表８】　（単位：a）

品目		R3(実績)	R4(実績)	R5	R6	R7(目標)
水稲	主食用米（コシヒカリ等）	344	548	750	950	1,000
	酒米	—	61	150	250	500
	計	344	609	900	1,200	1,500
エゴマ	—	45	70	140	140	140
保全管理等		79	60	60	60	60
営農面積合計		**468**	**739**	**1,100**	**1,400**	**1,700**

② 単当収穫量の増加【表９】　（単位：kg/10ａ）

品目		R3(実績)	R4(見込)	R5	R6	R7(目標)
水稲	主食用米(コシヒカリ等)	**255**	**282**	**300**	**315**	**330**
	酒米	—	270	300	315	330
エゴマ	—	14	30	30	30	30

③ オペレーターの増員【表１０】　　（単位：人）

	R3(実績)	R4	R5	R6	R7
正職員	3	3	3	4	4
パート（派遣含む）	14	15	15	14	15
計	17	18	18	18	19
内オペレーター	2	2	3	4	4

（２）目標達成のための取組みと効果

① 農地利用の効率化

水稲の作付けが非効率な、いびつなほ場や、水利の悪い圃場は、畑地として利用し、エゴマを作付けします。人・農地プランの話し合いに参加し、農地の集積や集約を図ります。近年は畦畔の芝生化が進められ、芝生化された畦畔では、除草作業の負担は軽減されています。集落との話し合い等で芝生化を推進し、除草作業の負担軽減に努めます。

② 反収の向上

八頭普及所の指導のもと、施肥時期及び施肥量、除草剤・病害虫防除等適切な肥培管理に努めます。特に、大きな減収要因となっている雑草対策に力を注ぎ、田んぼの見回り・水管理にあてる時間を増やし、除草剤散布後の水管理を入念に行い、目標の反収を達成します。また、食用米の生産は、全て減農薬、減農薬の特別栽培です。反収および食味を向上させるには堆肥及び籾殻を使用しての土づくりが重要と考えています。このため、これらの作業が効率的に行えるマニュアスプレッダーを整備します。

③ 効率的な作業のための機械整備体制

標高が高く、早生品種中心の栽培地域であることから、作業時期が集中します。春作業では、肥料散布と耕耘作業、代掻き作業と田植作業等、同時期に複数の作業を行う必要があります。作業別に作業機やオペレーターを専業化し、同時期に複数の作業を行える体制とすることや、田植時に箱剤散布や除草剤散布ができる田植機を導入し、春作業の効率化を図ります。収穫作業では、既存機は倒伏した稲の刈取り等で性能が劣ることから、能力の高い機種を導入し、また、複数で行う体制とすることで作業の効率化をすすめます。これにより適期収穫が可能となり品質の向上をはかります。栽培規模や栽培条件に適した体制を整えることで、作業効率も上がり適期作業が可能となります。

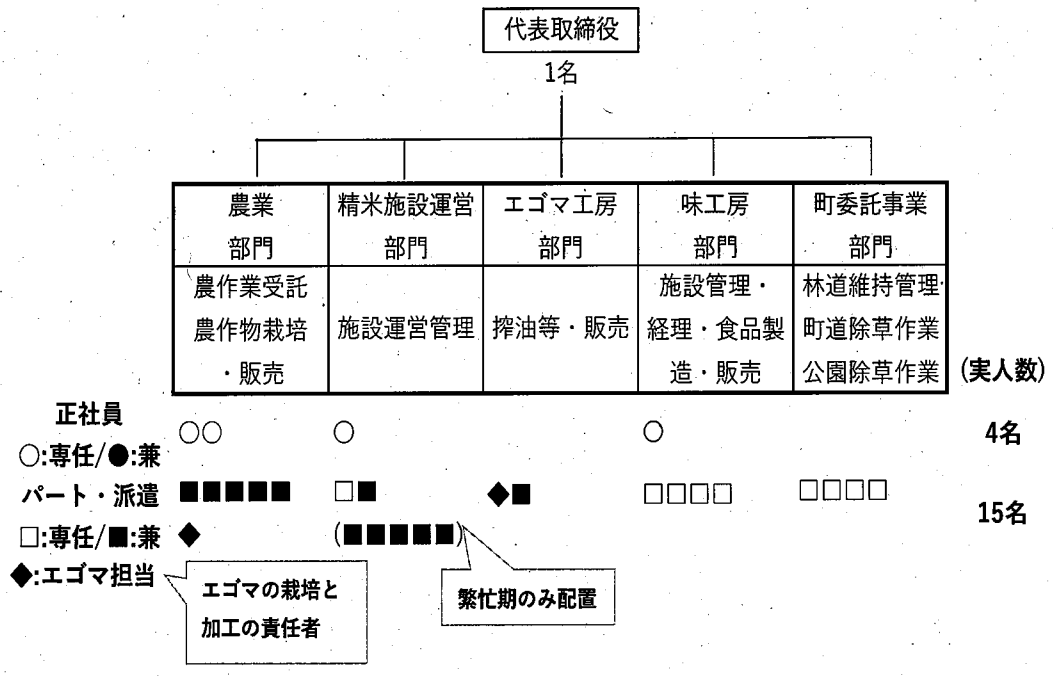
④　オペレーターの確保

耕作面積の増加及びこれに伴う機械整備により、オペレーターの育成は急務です。農業経験のあるパート社員や派遣社員の中から、適性を見てオペレーターを育成し、2名から4名に増員します。本人の意向もありますが、将来的には正社員としての雇用も考えています。受託作業を任せるには高い技術が必要なことから、まずは自社圃場での実践の機会を増やし、大型の作業機等での技術を習得させます。また、大型特殊免許の取得に係る経費を一部負担するなどし、免許や資格の取得を推進していきます。オペレーターを増員することで、限られた期間で多くの作業をこなすことが可能となり、作業遅れを解消することができます。また、オペレーターをしている社員が、繁忙期でも計画的に休暇がとれるよう労働環境を改善します。

⑤　社員の栽培管理の資質向上やリーダー育成

普及所などの協力を得ながら社内研修の実施や社外研修などにも積極的に参加させるなど、社員の知識・技能の向上につなげます。これまで多くの社員が複数の部門を兼務していましたが、今後は兼務を極力減らし、各部門のリーダーには専任社員を配置していきます。そうすることで、役割分担が明確になり、早期に専門性を培うこともでき、作業の効率化にもつながります。さらに営農部門では、水稲とエゴマ栽培それぞれに責任者的従業員を配置し、作業指示、栽培方法の指導など一貫して栽培に携わることで、全体的な資質向上とリーダーを育成します。

【図4：令和7年（目標年）の社員等の配置方針】



⑦ 販路の拡大

今後は県外への営業活動を活発化しく予定で、鳥取県の食材を多く使用している飲食店を中心に訪問活動していく予定です。

米については、今後は自社の面積拡大とともに取扱量も年々増えていきます（図５）主食用米の販売先は市内の飲食店などの直接販売がメインですが、令和 4 年では町外の介護施設との契約が決まるなど順調に販売量も増えています（表１１）。今後は業務用だけでなく個人販売にも力を入れていく予定です（図６）。

そのためにも若桜町の米の特長をもっとアピールする必要があり、やはり「おいしい米」であることをもっと強調していきたい。まずは自社で測定することができる米の食味に影響するたんぱく質の含有量が７％台低い点をあげるとともに、米のコンクールに積極的に参加し、入賞を狙い、知名度を上げていきたいと考えています。このように付加価値を付けて少しでも高額で取引したいと考えています。

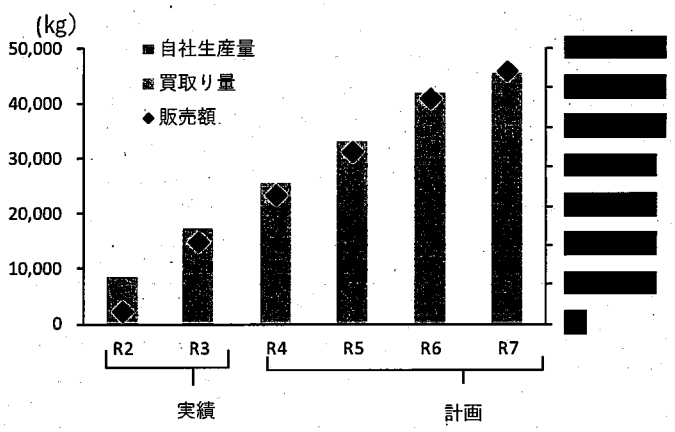
また、個人客を獲得することも重要なので、多くの消費者に食べていただく機会を捉えるため、イベント出店や町出身者への声掛けなどを積極的に行います。その結果が若桜米のブランド化につながると考えています。

エゴマについては、令和４年度から鳥取環境大学と共同でエゴマの成分分析の取り組みを始めました。エゴマの栄養成分を解明するとともに、その成分の含有量を分析し、栄養機能食品等の表示をすることで、他商品との差別化を図りたいと考えています。まずは、エゴマ油に多く含まれている「α-リノレン酸（表記する場合は n-3 系脂肪酸）」の栄養機能食品の表示をしていく予定です。また、環境大学の分析で、子実に多く含まれていることが確認された「ロスマリン酸」についても、栄養成分表示(枠外表示)にむけて準備をすすめているところです。

油や子実以外の商品の開発に取り組んでおり、葉を乾燥させてパウダー化したり、搾油後の絞りかすの利用方法なども検討しています。また、同大学の学生のゼミの一環で商品開発にも取り組んでもらっており、若者の発想やアイデアを活かすことで、新たな顧客を獲得していきたいと考えています。

【写真:環境大学との農作業を通じた交流、エゴマ移植作業】

【図５：食用米販売の現状と今後の見込】



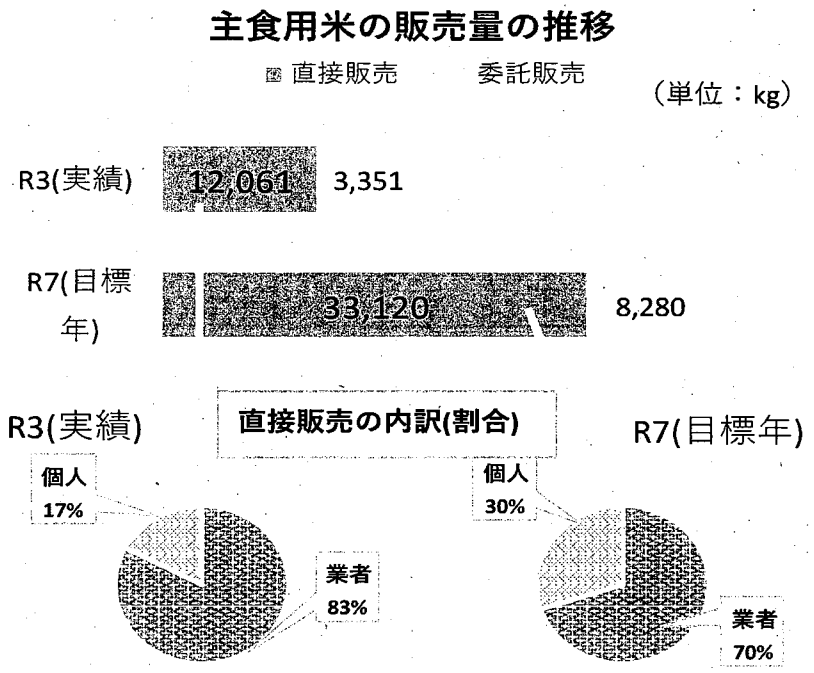
【表１１　米(※酒米も含む)販売の推移（重量および販売額)】

		R2(実績)	R3(実績)	R4	R5	R6	R7
主食用米	**重量(kg)**	**2,087**	**15,412**	**21,000**	**28,200**	**36,000**	**41,400**
	販売額(円)						
	直接販売(kg)	1,802	12,061	16,800	22,560	28,800	33,120
	販売額(円)						
	委託販売(kg)	285	3,351	4,200	5,640	7,200	8,280
	販売額(円)						
酒米	**重量(kg)**	**－**	**－**	**1,354**	**4,500**	**7,875**	**16,500**
	販売額(円)	**－**	**－**				
合計	**重量(kg)**	**2,087**	**15,412**	**22,354**	**32,700**	**43,875**	**57,900**
	販売額(円)						

○主な直接販売先：市内飲食店（２件)、町内宿泊施設（１件)、町外福祉施設、個人

○主な委託販売先：若桜道の駅、市内スーパー

【図６　主食用米の販売量の推移および直接販売の割合】



（３）　役割分担

項目	R３年	R４年	R５年	R６年	R７年	実施体制
経営耕作地拡大	○	○	○	○	○	町・JA・事業主体
機械の導入	○	◎	◎	◎	○	県・町・事業主体
収量向上	○	○	○	○	○	事業主体・JA・県
人材確保	○	○	○	○	○	事業主体・町
人材育成	○	○	○	○	○	事業主体・県
販路拡大	○	○	○	○	○	事業主体・JA・町・県

◎はがんばる農家プラン事業で実施、○は自主対応

（４）支援事業の内容（年次計画）　　（千円）※税込み

機種	台数	R４年度	R５年度	R６年度	負担区分
トラクター41PS ウィングハロー・バケット付	1	10,824			県 1/3 町 1/6 事業主体 1/2
田植機６条 箱施用剤・溝切機	1		4,227		
田植機６条 箱施用剤・溝切機	1			4,227	

コンバイン４条	1			8,692	
マニアスプレッタ （堆肥散布機）	1		3,377		
合計		10,824	7,604	12,919	

（参考資料）

【表１２　各機械の稼働時期】

種類	取得年月	R3	R4	R5	R6	R7
[redacted]	H13.6	○	○	－	－	－
[redacted]	H14.7	○	○	○	－	－
[redacted]	R5 予定	－	－	○	○	○
[redacted]	R6 予定	－	－	－	○	○
[redacted]	H18.12	○	○	○	－	－
[redacted]	R1.9	○	○	○	○	○
[redacted]	R6 予定	－	－	－	○	○
[redacted]	R2.4	○	○	○	○	○
[redacted]	R3.12	○	○	○	○	○
[redacted]	R3.12	○	○	○	○	○
[redacted]	R3.12	○	○	○	○	○
[redacted]	R2.11	○	○	○	○	○
[redacted]	H31.3	○	○	○	○	○
[redacted]	R4 予定	－	○	○	○	○
[redacted]	R5 予定	－	－	○	○	○
[redacted]	H31.3	○	○	○	○	○
[redacted]	H31.3	○	○	○	○	○
[redacted]	H31.3	○	○	○	○	○
[redacted]	H31.3	○	○	○	○	○
[redacted]	H31.3	○	○	○	○	○

添付資料

・機械稼働計画

・経営収支計算書（Ｒ４～Ｒ７年）

・ほ場一覧

・導入機械等カタログ、見積書

・導入する機械の規模決定根拠